**緑の時間「総合的な探究の時間」**

 ―音楽や美術など自分の専門や興味のあることをどのように地域と繋げていくのか―

テーマ　方言を他県の人にわかるように　〜リーフレットにするとしたら〜

１．テーマ設定の動機

私が大分に来た最初の頃、今まで聞いたことのない単語がでてくることが度々あり、本当に何と言っているのか解らず困ったことがありました。例えば、『なおす』。標準語に変換すると『片付ける』になりますが、最初聞いた時（壊れた物を）直すと勘違いしてしまい、どこが壊れているのか聞いてしまい不思議そうな顔をされたことがありました。大分県では一般的な『〜ちょん、けん』でさえどこか違和感を感じてしまうので、私のように大分の言葉が分からなくても、大分の方言を知ってもらう、魅力を感じてもらうにはどうしたらいいか興味を持ったのでこのテーマを設定しました。

２．仮説の設定

やはり現地の人々に聞くのが一番だと思いますが、周りに大分県民がいるとは限らないため、遠くの人へ届くようになど視覚的に訴えてくる物を作成し、伝えていくべきだと思います。

３．調査・研究の方法

・インターネット

・本

・人に尋ねる

４．調査結果

・方言のイメージ

（主に標準語で話す人々の持つ印象）

・親しみやすい、使いやすい、味がある、心情に合うな表現ができる　などほとんどの人が好印象なイメージを持っていました。

･大分弁のイメージ

次に、他県民が大分弁にどういうイメージを持っているのか調査してみました。

良いイメージ　可愛い、男らしい

悪いイメージ　怖い、荒っぽい、きつい

九州地方総合評価　　　きつい、荒っぽい

など、良いイメージがある反面、他県より比較的悪い印象が多くありました。

・なぜ大分弁が怖がられやすいのか

主な理由として

．意味が怖い

．大分弁には敬語が少ないから

．怒鳴ることが多い

確かにこのような特徴も大分弁の中にはあります。ですが、若者が使う大分弁は九州地方の中でも標準語に近いものがあり、だいぶ荒々しさが軽減されつつあります。

・最近大分弁は『可愛い』というイメージがついてきつつあり、その理由としては、「〜っちゃという響きが可愛らしい、ストレートな気持ちが伝わる、語尾でキツさが緩和し可愛さがプラスされる」など。

段々他県の人々も大分弁のイメージが改善されてきたようです。とはいえ、まだ悪いイメージが強いのも事実です。そこで考えたのが、大分弁を分かりやすくするためのリーフレットを作るとしたらどんなものがいいか考えてみることでした。

・リーフレット作り

リーフレットとはホッチキスなどを使用せず作成する一枚の紙のことです。（よく混合しがちですが、複数枚の紙を綴じたものはパンフレットです。）主な系統としては、可愛い、オシャレ、格好良い、ユニーク、シンプルなどが存在しますが、どれを重視するかはリーフレットによって様々です。

リーフレット作りには重要なルールがあります。

まず、①伝達＝ターゲットに分かりやすく

どんな人、どの年代の人に見て貰いたいのか明確にする必要があります。

例）ご高齢者向けの雑誌を作る→大きな文字や、シンプルなレイアウトにして見やすくする。

次に②ブランディング＝イメージを伝える

このリーフレットはどんなブランドなのか、何を伝えたいのかを一目見て分かるようにすることです。イメージに愛着をもたせる効果があります。

例）デザインやシンボルマーク、キャッチフレーズ

最後に③行動＝行動を促す

リーフレットを読んだ読者に、実際に買いたい、使いたい、見てみたいと思わせることが肝心です。

例）人気店のメニュー表、靴の一覧表

以上の三点です。

・実際に作ってみるとしたら､､､､｡

系統は「ユニーク」に設定し、読者の興味、関心を惹こうと思います。また、大分弁の理解を促すためのリーフレットなので、ぱっと見のインパクトを重視し、大分のイメージを詰め込もうと思います。

詰め込み過ぎるとゴチャゴチャとしてしまい、何を伝えたいのかが分からなくなるので、幾つか絞ってみました。

大分らしい「色」「モチーフ」「標準語と大分弁」

これらを使うとして話を進めていこうと思います。

＜大分らしい色＞

大分県民の好きな色アンケートの中で一位は青、二位は赤、3位はピンクでした。

二位の赤，三位のピンクは嫌いな色ランキングの上位でもあったので，今回は無難な「青」をテーマカラーに選択しました。

＜モチーフ＞

大分の産物　かぼす，乾しいたけ，温泉という

メジャーな物を記号化し，親しみやすいリーフレットにします。また，大分のマスコット「めじろん」も取り入れてみました。

＜標準語と大分弁＞

大分弁の魅力を伝えるためのリーフレットですが，肝心の大分弁がほとんど分からなかったため，地域の方々に「大分弁をどう思っているのか」「よく使う大分弁は何か」訪ねてみました。

Q1．大分弁をどう思っているのか？

1. そもそも大分弁を方言だと意識したことがない。それを当たり前に使い話しているため問われるまで気づかなかった。

Q2．よく使う大分弁は何か？

1. ・語尾に「〜っちゃ」「〜けん」が自然と付く。

・めんどしい（恥ずかしい）、よだきい（面倒臭い）と紛らわしい物が存在する。

・山と海で微妙に言葉が違うことがある。

例）「ていぼう」

山　堤防　　海　はそ

・漁師は喧嘩しているように聞こえがち。

これらを使用して完成した物が此方↓

 表（画像略）

　　　　　　　　　　　裏（画像略）

5．分析と考察

・大分の方言や魅力をもっと伝えていくには

私は大分に越してきて、方言のほっこりさを感じることができました。大分弁は怖いと言われがちですが、実際には想像以上に親しみやすいことを知ることができました。ですが全国的にはまだ一部の人しかその魅力に気づいていないように思います。そこで広めていくには積極的に発信していくことが重要になってくると思います。現在、大分のホームページや独自のチャンネルなどで様々な情報を広めていますが、見る人が限られてくると感じました。

そこで私が考えたのは、「＃地元の良さを広める　などのハッシュタグをつけ、ショートムービーなどで発信すること、全国で放送される番組でコーナーを作ること。」です。

こうすることで、地方チャンネルが見られないことを改善することが出来、一気に、より多くのことを発信できると思いました。

6．現在点で残っている問題点や疑問点

他県の人が大分県民と会話した時にどれくらい通じるのか。（その逆も然り）

7．感想

今回の研究はインタビューをする時の質問内容や応答の仕方、リーフレット一枚作成することの大変さ、普通なら学ぶ機会のないような分野を探求することが出来、非常に有意義でした。

改めて、大分の良さ、人の暖かさを感じたり、見つめ直す良い機会だったと思います。

8．文献・URLなど

https://gi-act.maff.go.jp/register/entry/33.html

https://theoita.com/sanpinintro/1100/

https://www.visit-oita.jp/topics/detail/161

https://iro-color.com/localcolor/prefecture-color/oita.html

https://kotobaken.jp/qa/yokuaru/qa-141/

https://www.tosho.co.jp/3604/

* ○○○○○の歴史（例）